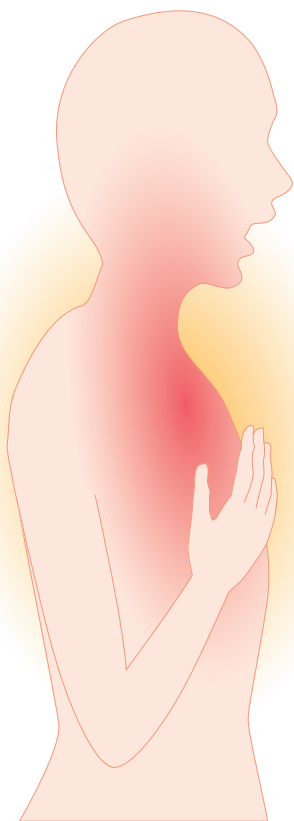


逆流性食道炎



逆流性食道炎とは、胃液が食道に逆流することにより、食道粘膜に炎症がおこる病気です。具体的な症状としては、胸やけ・胸部や喉の違和感、苦い液体の逆流・咳・気管支炎・げっぷなどです。



原因

食道の括約部がゆるくなる食道裂孔ヘルニアがベースにあることが多く、他には、油っぽい食事、ストレス、アルコール、喫煙、肥満、高齢などがあげられます。食生活の欧米化に伴い、増加傾向にある疾患です。



診断

主に胃カメラで行います。炎症の程度は、症例によりさまざまです。

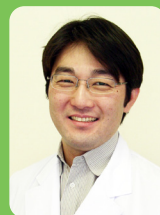


治療法

内服薬と手術療法があります。まずは、プロトンポンプインヒビター(PPI)またはH2ブロッカーという胃酸を抑える薬を内服して経過を見ます。よく効く内服薬がでてきたため、以前のように手術は行われなくなりましたが、高度の食道裂孔ヘルニアが原因で、内服薬で良くならない場合には、手術治療を行うこともあります。

腹腔鏡下噴門形成術

当院では、より侵襲の少ない腹腔鏡下に手術を行っています。腹部に小さい穴を4~5か所開けて腹腔鏡と鉗子を挿入し、胃壁を食道に巻きつけて縫合固定します。手術の2、3日後より食事を開始し、1週間前後で退院できます。手術後しばらくの間、食物のつかえ感があることもありますが、徐々に良くなっていきます。



外科医長

田中 潤一郎

社団法人日本外科学会認定外科専門医
東京大学1999年卒業、医学博士

なかなか良くならない逆流性食道炎の方、ぜひ一度、当院にご相談ください。

ご予約方法

電話予約 **04-7123-5901**

月曜日～土曜日 9:00～16:00 ただし、祝日および病院指定休診日を除く


kikkoman

キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>